

# ザンビア大学における日本語教育

## —活動 2 年目の報告—

波田野 陸  
ザンビア大学

### 1 自己紹介とザンビアの概要

私は青年海外協力隊の日本語教育隊員としてザンビア大学に派遣され、現在 2 年目になります。日本では六年間、日本語学校に勤め、初級から中級の学生を教えてまいりました。

ここで簡単にザンビアという国について触れておきます。正式名称はザンビア共和国、首都はルサカです。人口はおよそ 2000 万人、公用語は英語、通貨はクワチャです。1964 年にイギリスから独立した、比較的若い国といえます。

### 2 ザンビア大学での日本語教育の現状

ザンビアにおいて日本語を学べる場は、ほぼザンビア大学のみです。そこには 2 つの講座があります。ひとつは正課講座、つまり単位を取ることのできる正式な授業であり、もうひとつは一般の方も参加できる短期講座です。

正課講座は 2018 年に始まりましたが、コロナ禍で中断し、昨年再開されました。私は二代目の派遣隊員としてこれを担当しています。履修者は 15 名前後で、授業は週 5 コマありますが、学生の専攻や都合により出席は不規則になりがちです。そのため、小テストをこまめに行い、学習の継続を図っています。

一方、短期講座は週 1 回、全 10 回のコースで、学生以外の人々も受講できますが、有料です（ザンビア大学の学生は 150 クワチャ、それ以外は 400 クワチャ）。昨年は 2 回実施し、60 名近くが修了しました。今年は一回のみで、受講者は 20 名ほどです。教材は代々引き継がれたパワーポイントを使い、日本語そのものを深く学ぶというより、日本や日本語に親しんでもらうことを目的としています。講師には日本からの留学生や協力隊員も参加し、多様な形で運営しています。

### 3 課題と今後の展

こうした二つの講座を今後どうしていくかは、まだ模索の段階です。正課講座は1年で終わってしまうため、どうしても中途半端になりがちです。理想としては2年目、3年目と続く体系的なコースに発展させるのがよいと思います。一方で、短期講座を充実させ、レベル3、4と拡大していくことも選択肢のひとつです。しかし、そうすると正課講座の存在意義がなくなってしまいます。

また、私の任期終了後、後任の隊員がまだ決まっておらず、日本語教育が一時的に途切れる可能性があります。さらに、日本語教育を担うザンビア人講師が不在であることも大きな課題です。今後の継続的な発展には、この点を解決することが欠かせません。